

第六師団通信隊有線中隊の行動状況について（沖縄県立第二中学校）  
昭和二十年三月二十六日、通信教育を受けた学徒約五〇名は、首  
里工業学校在の第六師団有線中隊に入隊した。（引率者  
は同部隊氏名不詳の曹長）

同日、軍服や装具一切が支給され、小銃は豊富にあつたので、  
選んで受領したほか、手榴弾二伯も渡された。

最初学徒は「特別防召」と呼ばれて、二、三日後に階級  
章を受領してから、何某二等兵と呼ばれた。

入隊後は各分隊に配属になり、一般兵と同様配線訓練  
と、軍用語の電話連絡の教育を受けた。  
指揮官および係官は左のとおりであつた。

中隊長 田村 中尉

小隊長 吉武 少尉

山本 中尉

朝比奈 少尉

向日野 曹長

石田 伍長

本部附

某 伍長

昭和二十年五月初頃、学徒は分隊別に、嘉手納方面から進  
攻する米軍を退、任をうけた石ニニ大隊と、山の一ヶ大隊部  
隊名不詳)に派遣され、同部隊から豊見城にあった球、重  
砲陣地に有線電話で後方掩護射撃をさせる任務に当た  
が浦添、仲間、前田附近まで進出した時は米軍の進攻が  
急で、同部隊は相当の損害をうけ、学徒の戦死傷者が  
出た。派遣分隊は再び部隊に復歸した。

首里の戦いが不利となつたため、五月末の晩に部隊は分散  
(分隊別に)左の全路を辿つて南部へ撤退した。

首里——津嘉山(翌日未明到着、脱出発)——豊見城長堂——

高嶺——真壁伊敷(馬場附近の壕に四、五日滞在)——山城

(山城に到着した時は無線中隊は既に到着していた)

山城到着後は戦準備のために配線の段取りや壕堀

り、炊事に従事したほか、各部隊と連絡に努めた。その間

比較的元気のある者は、津嘉山方面から弾薬、食糧の運搬

に従事した。

0176

六月十七、十八日頃米軍は真壁方面に進出して来たので、岩蔭や自然壕を利用して、更に南部に後退し乍ら戦いを続け、学徒は分隊毎に殆んど全員が、小型急造爆雷を抱えて、主として米軍戦車に対する斬込に参加せしめられたが、山城、伊原、東辺、小須一帯に於ける戦死傷者が続出し、部隊も組織を失ったため、六月二十二日国頭突破を目的として最後の斬込に出発した。

負傷者は、久文、仁海岸方面で米軍に收容されたのがいる。

資料提供者

漢那憲三

上原真栄

0177